

東京都北区内の郵便局の入口脇に、ひときわ背の高い「菜の花」が植えられていました。春らしい明るい黄色の花が風に揺れ、何気ない街角にやわらかな彩りを添えています。しかし近づいてよく見ると、これは一般に思い浮かべるナノハナではなく、冬の花壇でおなじみのハボタンが春になって花を咲かせた姿です。

ハボタンはキャベツの仲間で、寒い時期には葉を鑑賞しますが、気温が上がると茎が急に伸びて花をつけます。この現象を「とう立ち」といい、栄養成長から生殖成長へと移行した証でもあります。葉の観賞期とは対照的に、ぐんと伸び上がった茎の先に小さな黄色い四弁花を次々と咲かせる様子は、同じ植物とは思えないほど印象が変わります。

用事を済ませた利用者がふと足を止め、その不思議な姿に見入っていました。季節感に乏しい郵便局にあって、季節の移ろいと植物の営みを、さりげなく教えてくれる一角でした。

(2026年4月中旬／東京都北区西ヶ原郵便局)

